全国美術館会議　緊急時のための常備用資機材　　2022（令和4）年5月31日

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
1	記録	撮影	コンパクトデジタルカメラ			被災状況や作品の画像記録を取るために必要。録画機能付きのもの。SDカード等の記録媒体と画像・映像をコンピューターにダウンロードできる外付けUSBカードリーダー等も必要。
2	記録	撮影	記録媒体			各館の画像記録機材に応じた2種以上の媒体を備えておく方が望ましい。SDカード、USB、DVD、外付けハードディスク、クラウドなど多種あり。
3	記録	事務管理	緊急連絡先名簿			それぞれの美術館が、運営や活動の状況に応じて、機能的なものを、その責任において作成し常置する。電源喪失の場合に備え、PCや通信ネットワーク内の電磁的データだけではなく、必要なときにだれでもが即座に閲覧・参照できるように、出力されたものが掲出されるべきである。また、その更新、改訂の館内ルールがそれぞれに定められ、それらがこの名簿に明示されていることが望ましい。具体的な名簿作成にあたって参照できるようにしたテンプレートは、2022年5月現在、検討中である。できあがり次第、本ウェブサイトにアップロードする予定。
4	記録	事務管理	（緊急搬出時の）日報			詳細な状態記録よりも、作品資料の有無の確認が優先されることがあることを視野に入れる。具体的な書式作成にあたって参照できるようにしたテンプレートは、2022年5月現在、検討中である。できあがり次第、本ウェブサイトにアップロードする予定である。
5	記録	筆記用具	緊急状態記録表			別添のテンプレートをもとに、それぞれの所蔵作品や保管資料の様態にあわせて、各館の責任で作成し常備する。緊急時に、保存担当者以外も使用すること場合を考慮し、簡便な記載方法で済む（✓式など）ように配慮される。場合によっては、詳細な状態記録よりも、有無の確認およびその記録が優先されることがあることを視野に入れる。
6	記録	筆記用具	筆記用具			鉛筆、ボールペン（複数色）、油性マジック（複数色）、消しゴム、付箋、ノート、クリップボード（バインダー）、ホッチキス、セロテープなど。
7	作業	工具	電動ドライバー			額縁など付属物を外すために使用。 ビット大・小(＋・－)も用意。
8	作業	工具	ドライバー	大・小／＋・－		額縁など付属物を外すために使用。たくさんあると作業人数を増やすことができる。
9	作業	工具	浸透潤滑剤			錆びたネジや釘を除去するために使用。代表的なものに「KURE5-56」がある。
10	作業	工具	鋸			
11	作業	工具	金槌			
12	作業	工具	バール	30～45cm程度		額縁や付属物などを解体するために使用。インテリアバールもあると、一般のバールより細かい作業がしやすく便利。

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
13	作業	工具	ペンチ	大・小		たくさんあると作業人数を増やすことができる。
14	作業	工具	ラジオペンチ	大・小		たくさんあると作業人数を増やすことができる。
15	作業	工具	ニッパー	大・小		針金切断、釘・鋲抜き用。たくさんあると作業人数を増やすことができる。
16	作業	工具	メジャー	2m以上		3m、10mなど長さが異なるものが複数あると便利。
17	作業	工具	ステンレス留め金具			作品固定用。T字型とI字型のものを用意。
18	作業	工具	ネジ			長さ1.5～5cm程度のものを各種用意。
19	作業	工具	はさみ			複数あると良い。
20	作業	工具	カッター	大・小		複数あると良い。替刃も必要。
21	作業	照明	懐中電灯			被災地における停電、電力の制限、使用していない施設等の事情によって、昼間でも建物内が暗いことはよくある。懐中電灯は必ず携行すること。近年はLEDのコンパクトで明るいライトがある。
22	作業	照明	ヘッドランプ/ヘッドライト			ヘルメットに装着できるタイプ。 被災直後は停電している可能性が高いので必要。懐中電灯は片手がふさがってしまうので、緊急搬出時などには有用。
23	作業	照明	置き型ライト	ランタン型		蛍光灯タイプも有効。手を使わずに明かりが得られる。暗い中で大型作品の状態確認などを行うには便利。

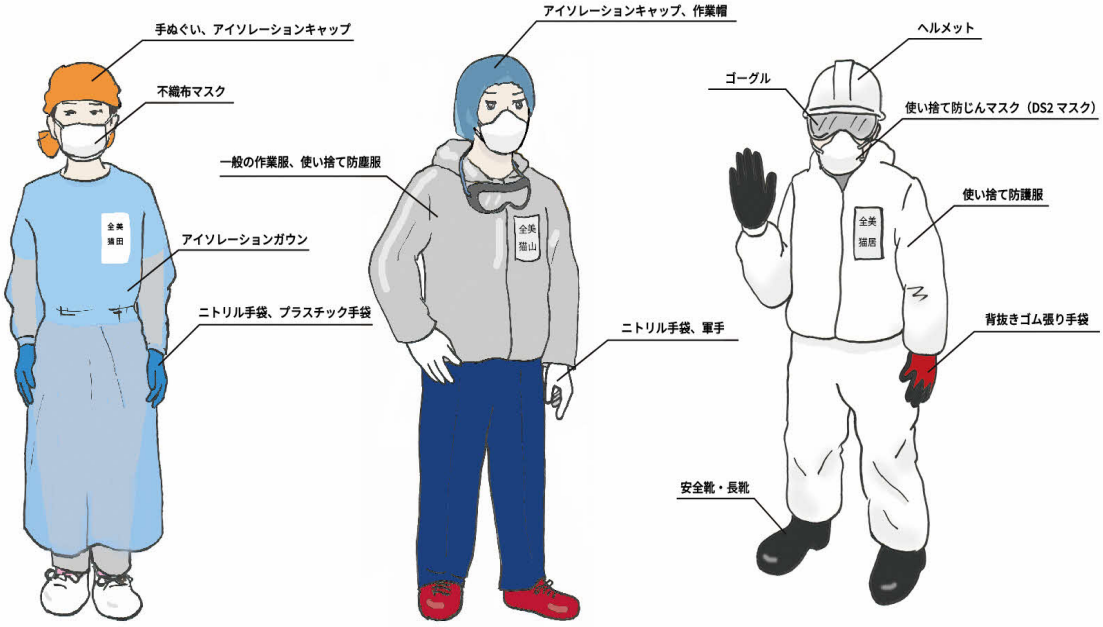
通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
24	作業	処置用具	不織布 （レーヨン紙 または ポリエステル紙）			紙作品等の脆弱な資料の保護のため、間に挟んだり、クッションとして使用したりする。薄葉紙と違い耐水性がある。レーヨン紙よりポリエステル紙の方が、耐水性が高く、吸湿性や伸縮性が低いので、水損した紙作品に使用するときはポリエステル紙の方が使い勝手が良い。ただし、レーヨン紙の方が安価である。
25	作業	処置用具	ペーパータオル			汚れの拭き取りや水分吸収などに使用する。たくさんあると良い。
26	作業	処置用具	スポンジ			作品や付属物の洗浄などに使用する。
27	作業	処置用具	刷毛	各種		塵埃やカビの除去に使用。山羊毛の柔らかいもの、豚毛や熊毛の硬めのものなど、幅が5～10cm程度のものが各種あると良い。
28	作業	処置用具	筆			幅1～2cm程度、山羊毛の柔らかい平筆が便利。付着物の除去などに使用。
29	作業	処置用具	竹串			細かい作業に使用するほか、脱脂綿を巻いて綿棒の軸とすることができる。
30	作業	処置用具	脱脂綿	500g入		梱包時に緩衝材として使用。竹串に巻いて綿棒を作ることもできる。
31	作業	処置用具	へら	竹製、プラスチック製、金属製		紙作品などを剥がすために使用。竹べら、パレットナイフなど、複数あると良い。
32	作業	処置用具	ピンセット			ストレートタイプと先曲がりタイプがあると良い。
33	作業	処置用具	タオル			たくさんあると良い。手を拭くだけでなく、作品の乾燥に使用したり、雑巾に使用したりできる。

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
34	作業	清掃用品	バケツ			10～15L程度のものが使いやすい。
35	作業	清掃用品	雑巾			タオルでも可。たくさんあると良い。
36	作業	清掃用品	ウエス			たくさんあると良い。
37	作業	清掃用品	箒			
38	作業	清掃用品	チリトリ			
39	作業	清掃用品	ゴミ袋	45L・90L		90L以上のものもあれば便利。ゴミ捨ておよび梱包にも使用できる。
40	作業	その他	チャック付ポリ袋	大28×20cm、中17×12cm、小12×8cm程度		作品・資料の破片、付属品などを保存するのに有効。透明なので中身が確認しやすい。油性マジックなど消えにくい筆記用具で作品名や採取部位などの情報を記入する。
41	作業	その他	サンプリングケースまたは小タッパー	大・中 詳細		押しつぶすと破損する可能性がある破片はサンプリングケースに入れると安全。脱脂綿などをいれて破片のクッション材とすることもできるが、繊維が絡まる恐れがあれば薄葉紙などをクッションとして使う。小さなタッパーウェア（タッパー）も代用できる。
42	作業	その他	紙コップ			飲料用のほか、作業中ネジ・釘など細かいものを仮に入れる時に使用できる。
43	作業	その他	吸水シート			ペット用トイレシートまたは介護用吸水シート。水損した作品の水分吸収や漏水に対応できる。
44	作業	その他	新聞紙			大量に集めるのは手間がかかるので、備蓄しておくと良い。
45	作業	その他	ブルーシート			小さければ布ガムテープなどで継ぎ足すこともできるので、扱いやすい1.8×2.7mで＃3000程度の安価な価格帯のものを選択するのも手である。

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
46	作業	電気機器	ポータブル蓄電池			電源が無い場所での作業に必要。災害時は停電する可能性が高いため、用意しておくと便利。コンセントやUSBの差し込み口が複数ついているものであれば、照明の確保、PCの充電など幅広く使用できる。室内外で使用可。平常時に充電しておくこと。
47	作業	電気機器	小型発電機			小型インバータ発電機。電源が無い場所での作業に必要。災害時は停電する可能性が高いため、用意しておくと便利。コンセントやUSBの差し込み口が複数ついているものであれば、照明の確保、PCの充電など幅広く使用できる。エンジンオイルとガソリンが必要。排気ガスが出るため、屋外での使用に限定。
48	作業	電気機器	ドラム延長コード			コードリール。コンセント形状（通常の2ピン＝単層アース無し、3ピン＝単層アース付き）、20m・30m・50m、屋内用と屋外用、防塵・防雨など多種あり。
49	作業	電気機器	電池	各種		懐中電灯、ヘッドランプ、置き型ライト用などに各種用意する。充電すれば繰り返し使用できる充電式乾電池も便利である。その場合は、専用充電器が必要になる。消費期限に注意すること。
50	作業	電気機器	トランシーバー			災害時は停電する可能性が高く、火災報知器や館内放送システムが使用できないことが予想されるため、作業者全員に一度に連絡する際に活用できる。スイッチを入れた状態で各部屋等に1台ずつ配置し、地震や火災が発生した際の避難指示などを出す際に使用する。
51	梱包	梱包	折り畳みコンテナ			作品や資料、あるいは資材を入れるために利用。30L程度のものが便利。水損資料を入れる場合は、側面部にメッシュなどの入った通気性の良いものが重宝する。
52	梱包	梱包	段ボール箱			主に作品や資料の避難輸送や一時保管に使用。展覧会等で用意した箱で再利用可能なものは備蓄の対象となりうる。
53	梱包	梱包	巻き段ボール			「片側段ボール」または「片段ボール」とも呼ばれる。作品を床に置く際や、長尺物の梱包に利用できる。
54	梱包	梱包	エアキャップ			作品や資料を輸送する際にクッション材として重宝するほか、防水性や防湿性に優れているため、雨よけなどにも使える。ただし、保温性があるため虫が巣を作ったり、静電気でホコリを吸着させやすいので清潔な環境での保管が必要。
55	梱包	梱包	薄葉紙			梱包時に作品の表面を保護する。作品保管が長期にわたりそうな場合は中性の薄葉紙が適切。裂いて紐にしたり、真綿を包んで綿枕を作るなど応用範囲が広い。作品表面がざらざらした脆弱なものは紙の繊維でひっかけないように気をつけるほか、水損作品はくっついて再除去が困難なため使えない。
56	梱包	梱包	クラフト紙（茶紙）			額縁や展示台などの付属品をエアキャップで梱包する前にクラフト紙で包むのに利用できる。片面にポリエチレンがラミネートされたクラフト紙は撥水、防湿効果がある。ただし、梱包したまま長期保存の場合、湿気がこもる可能性がある。

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
57	梱包	梱包	晒し布			作品の落下転倒を防ぐためや、作品の台車への固定などに使用。
58	梱包	梱包	平紐			綿の平紐（綾織で幅40㎜程度の厚手テープ）も作品固定に便利。
59	梱包	梱包	ハンディラップ			書籍等を運ぶ際に素早く束ねることができる。ただし、海水や汚水による水損資料を巻いたまま放置すると、ラップの内側に水分が残留しカビが生えるので注意が必要。
60	梱包	梱包	ビニール紐	丸紐		ポリプロピレン製平紐を撚り合わせた丸紐（別名：マイカロープ、PPロープ）はさまざまな太さのものがある。5㎜以上の丸紐は比較的耐久性があるため梱包・結束に繰り返し使用できる。
61	梱包	梱包	布ガムテープ			クラフトテープよりも粘着力と強度がある。手でひねればまっすぐきれいに切断することができるので、効率よく梱包できる。
62	梱包	梱包	養生テープ			美術品を梱包するプラスチックシートや、彫刻・建物等の汚れを防止する養生のシートを張る際などに利用。屋外で使用できる強粘着タイプのものから、一般的に使用されている中粘着、はがした際に糊が残りにくく仮止めなどに使用される弱粘着のものまである。いずれも長期使用を目的としていない。
63	梱包	梱包	マスキングテープ			額に入ったガラスの破損防止に使用できる。作品・資料には直接貼らない。長期間放置すると剥がしにくくなったり、接着剤が付着したりするので注意が必要。
64	梱包	その他	台車			資材運搬用。折りたたみ式の手押し台車（ハンドルタイプ）が腰の負担が少ない。傾斜のあるところではストッパー付きが安全。大きな木箱はハンドルのない平台車、絵画や長尺物の運搬は両袖ハンドル固定式台車と呼ばれるものが便利。
65	梱包	その他	標識トラロープ			建物の危険区域や、「傷みが激しくて作品に見えないが、実は貴重な作品が置いてあるエリア」など、立入禁止にしたい場所の区画に用いる。引張強度がないため、物を縛るなどの用途には使えない。
66	衛生	衛生用品	除菌 アルコールタオル	大容量サイズ（1袋あたり400～600枚前後）		水が使えない所で汚れた手などを拭いたり、作品・資料を扱うのに必携である。大量に使用するため大容量タイプを用意し、詰め替え用も用意すると良い。
67	衛生	衛生用品	ノンアルコール ウエットタオル	大容量サイズ（1袋あたり400～600枚前後）		主に肌がアルコールに弱い人向けに用意。長期間使っていると肌が荒れてくるので、アルコール成分に問題のない人のためにも用意。 また、アルコール成分に弱い・色落ちしてしまう作品・資料を扱う際にも使用。詰め替え用も用意すると良い。
68	衛生	衛生用品	救急箱			外傷用医薬品（三角巾、伸縮包帯、滅菌ガーゼ、不織布テープ、絆創膏、綿棒、ハサミ、刺抜き、ピンセット、消毒液、軟膏など）。

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考
	防護	防護具				緊急搬出時には一般に、ヘルメット、防じんマスク、手袋、作業靴、使い捨て防護服（ないし一般の作業服）、ゴーグル等の防護具が必要である。現場のリスクを予備調査した上で防護具を選択できれば理想的だが、それができない場合は諸リスクに関する情報をもとに想像しながら選択するしかない。特定のリスクがないのに重装備で作業すると、とくに環境が高温多湿の場合、疲労が蓄積したり呼吸が困難となって熱中症になりやすくなる（例：手首、足首等に「絞り」がある防護服や「つなぎ」の防護服を着用しなければならないリスクがないのに着用する、DS3マスクを着用するリスクがないのに着用する等）。 特定のリスクが高い場合はそれに見合った重装備を、リスクが低くなっていく場合には順次軽装化をという、総合的で柔軟なリスク管理が必要である。 なお、防じんマスク等については、国立文化財機構文化財防災センターのホームページに掲載されている「浮遊カビ等からの人体の防護に関するマニュアル」が参考となる（同マニュアルからの引用には以下※印を附している）。 https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/115772
69	防護	防護具	ヘルメット			緊急搬出時等環境の悪い現場に備え、国家検定品のヘルメットを用意する。はじめて被るヘルメットは、あごひもの脱着や長さを調整するアジャスターの調整にまごつくことが多いので、現場に入る前に試着、調整を行うこと。
70	防護	防護具	アイソレーションキャップ、防護服に付属しているフード、手拭い等			緊急搬出時等環境の悪い現場においては、毛髪に粉じんやカビ等がつかないように着用する。手ぬぐい等でも代用可能である。ヘルメットインナーや手拭いなど通気性や吸湿性の高いものをヘルメット内部で着用すると汗も吸うし、ヘルメットが安定する。他方、高温多湿の環境で、通気性・吸湿性の低い素材をヘルメット内部に着用すると、熱中症になりやすくなるので避ける。
71	防護	防護具	ゴーグル	曇り止め加工あり		環境の悪い現場においては、「眼に悪影響がないように原則常時着用もしくは携行を推奨する。ただしゴーグルは内側が曇り、危険になる場合があるので、常時着用は義務づけない。ゴーグルは曇り止め加工がされており、顔面に密着するものを選択する。」※
72	防護	防護具	防じんマスク	DS2マスク等		「厚生労働省が定める国家検定に合格した使い捨てかつ固体粒子対応の産業用マスクには、DS3、DS2、DS1の三つの区分があり、数字が大きくなるに従って粒子捕集効率は高くなるが、その分呼吸もしにくくなる。」※ 環境の悪い現場においては、粉じんやカビ等が呼吸器に入って肺炎等を起こさないよう防じん性能の高い産業用マスク（DS2マスク、DS2に相当するマスク等）を着用する 。「マスクを正しく選択すること、顔面とマスクの隙間からの漏れ込みを減らすことは、マスクのフィルター性能と並んで、場合によってはそれ以上に重要である。」※ 環境が改善されていけばDS1相当マスクまたは日本産業規格等に適合した不織布マスクでも対応可能である。
73	防護	防護具	耐切創用手袋（滑り止めのゴムが張られている軍手を含む）			切り傷や刺し傷など怪我の可能性がある環境に備え、耐切創用手袋を用意する。滑り止めのゴムが張られている軍手なども耐切創用手袋の一種と考えて良いが、手のひら部分に張られているゴムは、重量物を扱う際の滑り止めとしても現場作業に有用である。
74	防護	防護具	使い捨てのニトリル手袋 または プラスチック手袋（パウダーフリー）			パウダーフリー（粉無し、ノンパウダーとも言う）を用意する。緊急搬出時等で汚れがひどい作品・資料を取扱う場合、汚れが次の物に移らないよう途中で取り替える場合もある。 パウダーフリープラスチック手袋は、柔らかくてニトリル手袋よりも破れにくく、長時間装着していても蒸れにくい。「素手の繊細な感覚が必要な応急処置作業もあるが、手指に傷口やささくれ等がある場合は必ずニトリル手袋等を着用する。」※
75	防護	防護具	白手袋（綿薄手袋）			デリケートな作品を扱う際、手の脂や汚れが付かないように装着する、ミュージアムの必須アイテムであるが、レスキューの現場では、ニトリル手袋等を装着する際、その下に付けて掌の汗を吸い取るためにも有用である。
76	防護	防護具	作業着（使い捨ての防護服または一般的な作業服）			「緊急搬出等、文化財のレスキューの初期の現場では、切創や刺創の危険性が伴うこと、カビだけでなく現場にある液体や気体、粉塵や細菌等が不詳であること等から十分な防護具を選択する必要はあるが、環境が改善されていけば、現場に適した防護具を選択できる。」「環境が改善した作業区域では、［タイベック］II型やI型、あるいはそれに近い性能をもつ各メーカーの使い捨て防護服（ガウンも含む）や一般的な作業服で対応可能である。」※ 「気温や湿度の高い環境では、熱中症になりにくい吸湿・速乾・通気に優れた作業服を選択する。その際セパレーツタイプやガウンの着用も選択肢に入れる。」※ 「汚染水がある作業場等では耐水性の使い捨て防護服ないし作業服を用いる。」※
77	防護	防護具	安全靴等の作業靴			環境の悪い現場に備え、リスクに対応した安全靴、長靴等の作業靴を用意する。

通し番号	使用目的	分類	品目名/名称	種別/規格	参考画像	備考

軽装（例）　　中間的な装備（例）　　重装備（例）